

「令和 5 年度科学研究費助成事業(科研費)の公募から適用する『審査区分表(内容の例)』の改正案等について」に対するパブリックコメント

<意見提示用参考資料>

文部科学省からの検討依頼事項

1)内容例の検討

(1)日本学術振興会からの提案

- ・今回の見直しは、令和 2 年 2 月 5 日～3 月 1 日に日本学術振興会において実施した意見公募の結果及び、応募動向の検証結果等を踏まえ、現行の大区分・中区分・小区分を継続適用しつつ、小区分の「内容の例」を中心に検討した。
- ・検討に当たっては、将来の大括り化を見据えて単語数を少なくすること、新しいものも包含できるようになるべく抽象的で広い範囲の言葉を用いることを徹底した。

(2)上記提案に対する本学会からの問題点の例示

- ・新しいものを包括できるように、なるべく抽象的で広い範囲の言葉を用いることを徹底したという趣旨を反映した内容の例示となっていないのではないか。例えば、教育生理学といった例示が残されている一方で、ウェルビーイングやスポーツと開発支援、スポーツビジネス、スポーツの価値といった例示項目がみられないこと。
- ・体育、スポーツ、健康科学の研究対象の拡がりを反映していないのではないか。特に、ユネスコや国連が 2000 年以降に積極的に展開してきた SGD' s と関連したスポーツ、体育の質改善に向けた提案を反映していないのではないか。この観点を含めた場合には、カリキュラム開発といった内容の例示が必要になるのではないか。
- ・なお、日本学術振興会からの具体的な見直し案とそれに対するコメント例は、下記別添 1 を参照願います。

別添1 審査区分表（内容の例）の見直し案 中区分59：スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野			
小区分	(旧) 内容の例	(新) 内容の例	コメント
59010	リハビリテーション科学関連		
	リハビリテーション医学、リハビリテーション看護学、リハビリテーション医療、理学療法、作業量法学、福祉工学、言語聴覚療法など		・アダプティッドスポーツを位置づけてもいいのではないか。
59020	スポーツ科学関連	スポーツ科学関連	
	スポーツ生理学、スポーツ生化学、スポーツ医学、スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツ心理学、スポーツ教育学、トレーニング学、スポーツバイオメカニクス、アダプティッドスポーツ科学、 ドーピング 、など	スポーツ生理学、スポーツ生化学、スポーツ医学、スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツ心理学、スポーツ教育学、トレーニング学、スポーツバイオメカニクス、アダプティッドスポーツ科学、など	・ドーピングの削除 ・スポーツ史、スポーツ哲学等の人文社会学系の名称の少なさ ・スポーツの価値、文化現象、社会現象としてのスポーツを研究対象とするという認識の弱さ ・コーチング学、スポーツビジネス、スポーツと開発支援等の名称の欠如
59030	体育および身体教育学関連	体育および身体教育学関連	
	発育発達、身体教育、学校体育、教育生理学、身体システム学、脳高次機能学、武道論、野外教育など		・教育生理学、身体システム学、脳高次機能学があがっていることの違和感 ・教師教育やコーチ教育のような指導者養成に対する配慮がみられないのではないか。 ・カリキュラム開発が欠如しているのではないか。
59040	栄養学および健康科学関連		
	栄養生理学、栄養生化学、臨床栄養、機能性食品、生活習慣病、ヘルスプロモーション、老化、など		・メンタルヘルスやウェルビーイングが入っていないことへの違和感 ・生涯スポーツ、生活の質改善に向けたスポーツという観点の欠如 ・栄養生理学、栄養生化学を分けることへの違和感 ・臨床栄養、機能性食品を独立させることへの違和感

2) 審査の大きくくり化

(1) 日本学術振興会からの提案事項

- ・日本学術振興会における、大区分・中区分・小区分への研究種目別の応募動向等の分析の結果を踏まえ、より公正な審査及び、今後の審査区分の更なる大括り化を目指す観点から、基盤研究（B）において、著しく応募件数の少ない状況にある一部の小区分については、他の小区分と合同で審査を行う。
- ・合同審査は、別添2のとおり49小区分を対象とする。

< 合同審査の方法 >

- ・審査委員選考に係る基本的な考え方（下記参照）に沿って選考された審査委員による2段階書面審査を実施する。採択可能件数等の審査に必要な情報は合同審査の単位で算出（対象区分の合計値）する。
- ・また、審査区分ごとの応募採択状況を公開する場合や審査結果を応募者本人に開示する場合は、審査委員の公開と同様、合同審査の単位で公開・開示することとする。

< 合同審査に係る審査委員選考に係る基本的な考え方 >

○個々の小区分ではなく、合同審査対象区分として適切に審査できる体制とする。

< 留意事項 >

- ・選考（委嘱）段階から「合同区分を審査するための審査委員」とし、区分に帰属意識が生じないよう留意する。

- ・審査委員名はX・Y 区分の合同審査委員としてまとめて公開する。
- 合同審査対象区分ごとに事情が異なるため一律の審査委員構成とはせず、合同審査対象区分ごとに適切な審査委員の構成を検討する。

基盤研究（B）は電子システム上で2段階にわたって書面審査を行う「2段階書面審査」で採否を決定

- ・審査委員の合計は6名～12名（仮に3区分以上が合同でも最大12名）の範囲内
- ・当該区分に精通している審査委員を少なくとも3名程度は含める

(2)上記の提案に対するパブリックコメント内容

- ・体育、スポーツ、健康科学に関連する大くくり化の対象が示されていないため、コメントすべき対象が存在しない。そのため、本件に関しては、コメントしない。

資料1 採択区分の変化

2018年審査区分	
分野	分科
複合領域	デザイン学
	生活科学
	科学教育・教育工学
	科学社会学・科学技術史
	文化財科学・博物館学
	地理学
	社会・安全システム科学
	人間医工学
	健康・スポーツ科学
	子ども学
	生体分子科学
脳科学	

分科とは、審査希望分野の分類表である「系・分野・分科・細目表」の構成単位の一つである。

分野は、79の分科により構成されている。

2019年度審査区分

2019年度審査区分	
大区分	中区分名
大区分I	腫瘍学およびその関連分野
	ブレインサイエンスおよびその関連分野
	内科学一般およびその関連分野
	器官システム内科学およびその関連分野
	生体情報内科学およびその関連分野
	恒常性維持器官の外科学およびその関連分野
	生体機能および感覚に関する外科学およびその関連分野
	口腔科学およびその関連分野
	社会医学、看護学およびその関連分野
	スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野
	人間医工学およびその関連分野 *

資料2 体育、スポーツ、健康関連科研費採択率の推移

体育、スポーツ、健康関連科学の科研費の採択比率は、医学のもとに組み入れられた、今回の申請区分が適用されて以降（黄色）とそれ以前で大きな変化はみられない。このような状況は、体育関係者から申請例がみられる教育学およびその関連領域においても同様である。採択率は、おおよそ30%前後となっている。

他方で、新規申請制度が導入されて以降、申請件数が一気に増加している。この理由は不明である。しかし、採択内容の確認が求められる。特に、基盤（A）以上の大型科研の採択は、KAKEN データベースで研究テーマを閲覧する限り、採択が難しくなっている分野があることが予想される。この枠組みそのものは、今回のパブリックコメントの対象になっていないが、今後の検討課題になると考えられる。

ちなみに、現在の、「中区分59：スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野」は、1)リハビリテーション科学関連、2)スポーツ科学関連、3)体育および身体教育学関連並びに4)栄養および健康科学関連で構成されている。

年度	中区分名	応募数（件）	採択数（件）	配分額（直接経費） （千円）	1課題当たりの 平均配分額（千円）	採択率	中区分あるいは 分野採択比率	全体採択比率	備考
2013(平成25年度)	健康・スポーツ科学	1,737.5	495.5	956,200	1,930	28.5%			分科のみ。
2014(平成26年度)	健康・スポーツ科学	1,860.5	540.5	974,000	1,802	29.1%			複合領域分野
2015(平成27年度)	健康・スポーツ科学	2,057.5	561.0	1,054,100	1,879	27.3%			複合領域分野
2016(平成28年)	健康・スポーツ科学	2,197.5	602.0	1,160,750	1,928	27.4%	26.4%	26.4%	複合領域分野
2017(平成29年)	健康・スポーツ科学	1,855.0	518.0	985,700	1,903	27.9%	30.4%	25.0%	複合領域分野
2018(平成30年)	スポーツ科学、体育、健康科学 およびその関連分野	3,584.0	960.0	1,835,400	1,912	26.8%	26.3%	24.9%	中区分1
2019(令和元年)	スポーツ科学、体育、健康科学 およびその関連分野	3,625.0	1,101.0	2,075,500	1,885	30.4%	29.8%	28.4%	中区分1
2020(令和2年)	スポーツ科学、体育、健康科学 およびその関連分野	3,831.0	1,122.0	2,129,000	1,898	29.3%	29.4%	27.4%	中区分1

資料3 教育学およびその関連領域の採択率の推移

中区分名	応募数（件）	採択数（件）	配分額（直接経費） （千円）	1課題当たりの 平均配分額（千円）	中区分あるいは 分野採択比率	備考
教育学	1,943.5	606.5	855,600	1,411	31.2%	分科 教育学
教育学	2,130.5	653.5	886,450	1,356	30.7%	社会科学分野
教育学	2,276.0	692.0	933,800	1,349	30.4%	社会科学分野
教育学	2,436.5	723.5	932,100	1,288	29.7%	社会科学分野
教育学	2,152.5	682.5	925,150	1,356	31.7%	社会科学分野
教育学およびその関連分野	4,671.5	1,307.0	1,866,900	1,428	28.0%	大区分A
教育学およびその関連分野	4,865.0	1,499.0	2,139,850	1,428	30.8%	大区分A
教育学およびその関連分野	4,999.0	1,539.0	2,111,000	1,372	30.8%	大区分A